

蛇腹折り タイプ  
俯瞰する手帳 登場

SciKaku  
ポケット  
プロジェクト  
ガイドブック



- プロジェクト管理志向
- 月間レビュースタイル
- マンスリー + ガント&バーチカル式
- 携帯性重視(紙幣サイズ)
- 本格仕上げ(経本職人・日本伝統)
- 高品位用紙銘柄(平滑性・強度)

原寸巾 (折畳み時)

2017.04

“SciKaku(サイカク) ポケット”シリーズ

■ポケットサイズの携帯性と閲覧性の両立

フットワークが求められるビジネスシーンや旅行先等での軽装時における持ち歩きが容易な大きさと重量としながらもモバイル端末や一般的な手帳では困難な長尺の極めてワイドな見開きを使った閲覧(俯瞰)を可能とする「蛇腹折り」を標準採用。

■機動性・タフさの追求

不安定で取り扱いが難しいという課題を伴う蛇腹折りを手帳用途で採用するにあたり、機動的でタフさが求められるプロダクトとしての望ましい実用性と品質を確保するべく、独自デザインのブックカバー(フォルダー)を開発。

■日本製・品質へのこだわり

手書きの良さを再発見していただきたい想いと、長く手で触れる製品だからこそ最後まで質の高さを感じていただきたく、心地良い筆記体験を提供する用紙銘柄、伝統の技を活かした本格仕上げの製本など、採用した素材や製造技術の全てがトップ品質。

プロジェクト管理志向

●小規模でもキチンと工程管理したい方へ

小規模でも同時進行する複数の工程を抱え、ガントチャート(プロジェクト管理のスケジューリング技法)を用いて管理したい方にオススメします。

長尺の蛇腹折りの採用で、頁の表裏を行き来する必要が無くなる(※)と同時に時間軸も一方向に定まるため、チャートが俯瞰し易くなっています、時期の遠近や期間の長短ボリュームなどを直感的に把握できます。

月間レビュースタイル

●月単位で振り返り管理する複合式スタイル

マンスリー式カレンダー頁とガントチャート&バーチカル式のカレンダー見開きを一続きとして、月単位で区切ったレイアウトにしていますのが特徴です(写真)。

月末時点の進捗状況などを振り返り記入するためのスペース(余白)を意図的に設けています(写真)。

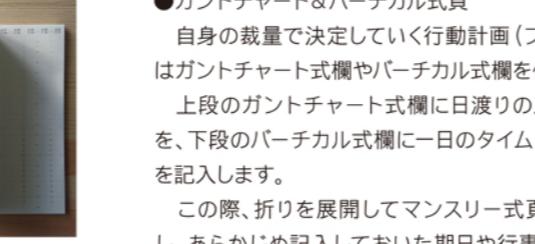
マンスリー + ガント&バーチカル式

●マンスリー式頁

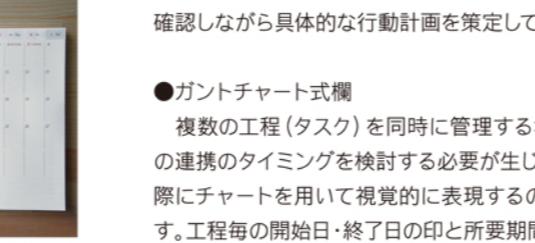
組織内の活動では必然的に1ヶ月単位で行事予定が組まれ、曜日に依存する行事もよくあることから、これに適したマンスリー式を使って、ひと先ず最初のインプットとなる期日や行事などの予定を書き留めます。

自身の行動予定は別頁に記入していくため、直接的には影響しないまたは未確定のイベントをあらかじめ分けて管理することができます。

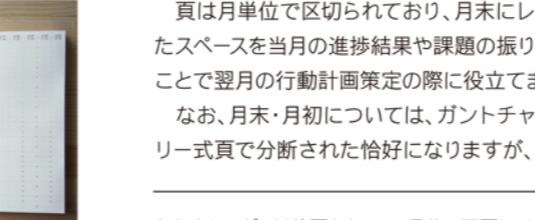
なお蛇腹折りを部分開閉すれば、異なる月のマンスリー式頁を横並びで閲覧可能です(写真)。(※)



マンスリー式頁がガント&バーチカル式頁を月毎に区切る並び



折りの開き方ひとつで閲覧したい頁だけを横並びにできる



翌月に渡るガントチャートの閲覧はマンスリー式頁を閉じるだけ



1ヶ月分の各レベルの計画が一括して閲覧できる複合式のカレンダー(詳細は裏面の原寸図) 月末・月初のスペース(余白)の活用が大切

●ガントチャート&バーチカル式頁

自身の裁量で決定していく行動計画(プロジェクト)はガントチャート式欄やバーチカル式欄を使います。

上段のガントチャート式欄に日渡りのスケジュールを、下段のバーチカル式欄に一日のタイムスケジュールを記入します。

●バーチカル式欄

一日のタイムスケジュールを縦の時間軸に沿って記入するバーチカル式。用紙の下半分にレイアウトされた時刻の目盛は、前後の余白と目印を使って24時間まで拡大できるデザインになっています。

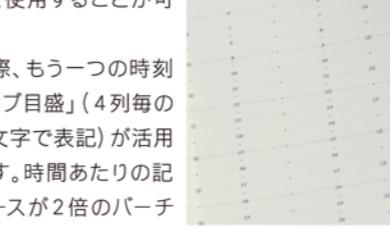
●ガントチャート式欄

複数の工程(タスク)を同時に管理する場合、工程間の連携のタイミングを検討する必要が生じますが、その際にチャートを用いて視覚的に表現するのが効果的です。工程毎の開始日・終了日の印と所要期間を表す棒線や工程間のひもづけなどをチャート化して行きます。

●全面バーチカル式のみという選択肢(サブ目盛)

タイムスケジュール重視の使い方が想定される場合は、上段のガントチャート式欄のスペースもバーチカル式として使用することができます。

この際、もう一つの時刻表記「サブ目盛」(4列毎の白抜き文字で表記)が活用できます。時間あたりの記入スペースが2倍のバーチカル式として取り扱えます。



時刻目盛(白抜きはサブ目盛)

携帯性重視(紙幣サイズ)

各種ポケットに入れて持ち運べることを重視して実測から導いた寸法は、一万円札とほぼ同じ。男女何れの手にも馴染むサイズ感になっています。

グリップの太いペンと共にワイシャツの胸ポケットに収まるため、夏場の軽装時などでも重宝します。

スリムタイプですが、見開き2ページだけで比較しても、一般的なポケットタイプの手帳(B7判)よりも広い閲覧面積を確保しています。

本格仕上げ(経本職人・伝統の技)

和紙は、蛇腹折りの強度を確保する上で秀でていますが、閲覧用途の経本と異なりシャープペンシルなど(ペン)での筆記用途としては不向きです。

一方、ペンでの筆記に適した洋紙を前提とし、使用頻度の高い手帳としての耐久性を確保するためには、蛇腹折りの用紙には相応の厚さや密度が求められます。ところが、それらが増せば折り加工の難易度が増すという矛盾が生じてしまいます。厚く密度の高い用紙の場合は元に戻ろうとする力が強い分、特に折り山の数が多い蛇腹折りでは、折りつ放しの仕上げ方では

圧力を加えてもバネのように跳ね返り膨らんでしまう現象が発生します。水寄せあり(左)と水寄せなしの比較構造(フラップ)が特徴です。また、用紙の天地面の断面保護のためにカバーが少し張り出した構造(チリ)を設けており、同時にこの部分はポケットに入れた際にポケットの底の形に合わせて屈曲し圧力を分散するクッション機能を果たし、布地へのダメージを減らすことに配慮したデザインになっています。

携帯性重視の思想から、薄くて軽く高耐久性の素材を採用。コシがあり筆記時の安定性が向上します。カバーが薄いので、用紙をカバー外側まで引き伸した状態でも段差を気にせず筆記できます。

高品位用紙銘柄(平滑性・強度)

蛇腹折り手帳の構造素材であり、筆記用具でもあるという要件を満たす解として特殊紙を採用しています。そして、コストを含めてバランスが取れる紙銘柄が国内に存在した点は商品化できた要因の一つと云えます。

深いクリーム色が見た目にも柔らかい印象を放つ紙ですが、特筆すべきは表面の質感にあります。鉛筆で筆記できる紙の中でも、本銘柄のすべすべした手触りが心地良く格別である点は、触れた瞬間から感じ取れる程。また、紙の表面から得られる印象と異なりコシが強く、立ち姿勢で筆記する際の安定感にも貢献しています。

SciKaku  
ブックカバー  
(ポケットタイプ専用)

携帯・保管に便利な別売の専用ブックカバー(フォルダー)を装着すると、(2頁見開き)綴じタイプの冊子に近い使い勝手が得られます。



この際、もう一つの時刻表記「サブ目盛」(4列毎の白抜き文字で表記)が活用できます。時間あたりの記入スペースが2倍のバーチカル式として取り扱えます。